



# おおあし

第3号

《 大芦小HP <https://oashi-e-konosu.edumap.jp/>  検索 《

## 結果より過程が大切

5月17日(金)、コスモスアリーナふきあげで行われた鴻巣市小学校球技大会に本校の6年生が出場し応援して参りました。この球技大会(バスケットボール)は鴻巣市の全小学校17校を5グループに編成して市内各所で開催されており、今年度も無事に全ての日程を終えました。この大会がいつから始まったのかは分からないのですが、少なくとも30年以上は継続(令和2年度は新型コロナウイルス感染症蔓延のため中止)しており、小学校時代にこの大会に出場したことを思い出す方もいらっしゃるのではないかと想像しております。毎年6年生は学級開きと共にこの大会に向けてチームをつくり、バスケットボールの経験があるなしに関わらず目標をもち練習に励みます。現在は過多とならないよう練習開始日を遅くに設定したり、1週間に放課後練習をする日数を制限したりしていますが、一昔前は5年生の頃からマイボールを持たせ、朝にも練習したりして毎日取り組んでいたこともありました。児童はもちろん大変でしょうが、6年生を受け持った担任の先生方も大変です。大会を運営する側も経験したことがない審判等を任されることもあり、試合が白熱してくるとその矛先が運営側に向けられることもありました。それでも私は、このような大会があることは大変素晴らしいことだと思っています。吹上地区4校の同じ6年生の仲間が、競技を通じて楽しみ、交流する機会を得られるのです。今年もフェアプレーのもと熱戦が繰り広げられ、5年ぶりに保護者の方々にも観戦していただき、皆様の理解や協力もあって和やかにスムーズに運営されていたように思います。

本校の6年生14名の児童は当初、大会を目指して練習するというよりは放課後にみんなでバスケットを和気あいあいと楽しんでいるかのようなようでした。しかし日に日に上達し、練習試合などを重ねていくと、チーム全体としてもっと高めていくためにはどうしたらよいかを考えながら練習するように意識が変わり、お互いが積極的に声をかけ合うようになったり、個人で率先して自主練習をするようにもなったりして、少しずつ成長を遂げていったような印象をもちます。球技大会の目的は「児童の親睦を図り、体力及びボール運動の技能向上を図る一助とする」ことですが、やはり勝負ごとには勝利を目指して本気で取り組まなければ意味がありません。もちろん結果主義ではありません。そこまで積み重ねていく過程が大切であり、結果を求めないで行うことは惰性や無責任を生むでしょう。仮に結果を出せば自信をつけ、歓喜をもたらしてくれるはずですが。当日、私は難しい戦いを強いられるのではと予想していました。しかし、児童は誰一人として諦めてはいませんでした。試合終了の合図まで、最後まで一生懸命ボールを追って走りました。頑張っている仲間を助けようと、大きな声をかけて仲間を鼓舞しておりました。劣勢の場面で先生の指示を真剣に聞き傾く瞬間、シュートが決まって応援の方々と一緒に喜ぶ瞬間、通常の学校生活では作るのが難しいシーンがたくさん生まれました。また、少数とは思えないほどの声量で他校の先生方や施設の方々にあいさつをし、試合開始と終了時も相手チームへしっかりと声を届けることができていました。学校紹介や感想発表の時の返事も素晴らしいものでした。そんな6年生の姿に目頭が熱くなりました。バスケットの試合の勝敗はどうかであれ、この大会で貴重な経験をし、多くを持ち帰り、きっと今後の生活に活かしてくれることを確信しました。何事にも全力で立ち向かい、目標をもって粘り強くやり通す姿を、思う存分見せてくれたことを大変嬉しく思います。

「結果が出てもすべてが良かったと思って慢心すべきではない。」と肝に銘じるスポーツ選手も数多くいます。6年生の今後の謙虚な学校生活にも期待が膨らみます。(校長 横尾 臣)